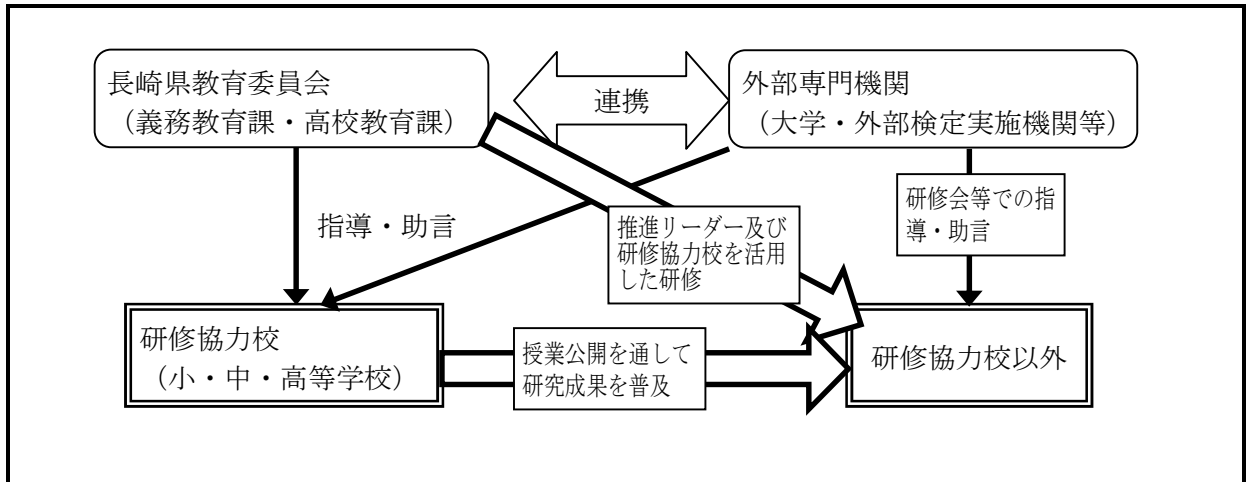


長崎県英語教育改善プラン

1. 実施内容

(1) 研修体制の概要



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

①求められる英語力を有する教師の割合

【中学校】

27年度：25.9% 28年度目標値：40% 29年度目標値：50%

【高等学校】

27年度：61.1% 28年度目標値：70% 29年度目標値：80%

《今後に向けて》

離島・へき地勤務等により外部試験の受験が困難な教員も多い現状がある。平成28年度及び29年度については、教員の英語力を高める研修会を実施するとともに外部試験の受験機会を設けることを計画している。

②求められる英語力を有する生徒の割合

【中学校】

27年度：32.7% 28年度目標値：40% 29年度目標値：50%

【高等学校】

27年度：35.1% 28年度目標値：42% 29年度目標値：50%

《今後に向けて》

推進リーダーを活用した指導力向上研修を、中学校は平成29年度まで、高等学校は平成30年度までに全教員が受講する計画している。この研修を通して4技能の力を総合的に伸ばす授業の具体的な進め方を普及させる。

③学習到達目標の整備状況

【中学校】（設定）

27年度：28.1% 28年度目標値：60% 29年度目標値：100%

【高等学校】（設定）

27年度：10.5% 28年度目標値：100% 29年度目標値：100%

《今後に向けて》

中学校ではこれまでの研修会等で働きかけを継続し、多くの市町で作成作業を行うまでに至っている。また、高等学校では全ての学校に対して「CAN-DOリスト」の作成・提出を指示したところである。

今後は県全体で「CAN-DOリスト」を活用した授業づくりを目指し、研修会や学校訪問

等を通じて効果的な活用を促進する。

④生徒の授業における英語による言語活動時間の割合（％）

【中学校】

27年度：71.8％ 28年度目標値：75％ 29年度目標値：80％

【高等学校】

27年度：42.8％ 28年度目標値：50％ 29年度目標値：60％

《今後に向けて》

生徒主体の授業づくりを目指し、授業における言語活動時間の割合は増加している。今後は、指導力向上研修の内容を生かし、言語活動の中身についても充実を図るよう働きかける。研修協力校による公開授業では、「CAN-DOリスト」の活用も含め、効果的な指導の在り方や先進的な取組等を生かした授業を普及させることができるように努め、生徒の言語活動を中心とした授業づくりを推進する。

⑤パフォーマンステストの実施状況

【中学校】

○スピーキングテスト

27年度：2.7回 28年度目標値：2.9回 29年度目標値：3.0回

○ライティングテスト

27年度：2.3回 28年度目標値：2.4回 29年度目標値：2.5回

【高等学校】

○スピーキングテスト

・コミュニケーション英語Ⅰ

27年度 0.93回 28年度目標値 1.2回 29年度目標値 1.5回

・コミュニケーション英語Ⅱ

27年度 0.43回 28年度目標値 0.7回 29年度目標値 1.0回

・コミュニケーション英語Ⅲ

27年度 0.17回 28年度目標値 0.5回 29年度目標値 1.0回

・英語表現Ⅰ

27年度 0.91回 28年度目標値 1.2回 29年度目標値 1.5回

・英語表現Ⅱ

27年度 0.41回 28年度目標値 0.7回 29年度目標値 1.0回

○ライティングテスト

・コミュニケーション英語Ⅰ

27年度 0.09回 28年度目標値 0.5回 29年度目標値 1.0回

・コミュニケーション英語Ⅱ

27年度 0.22回 28年度目標値 0.5回 29年度目標値 1.0回

・コミュニケーション英語Ⅲ

27年度 0.12回 28年度目標値 0.5回 29年度目標値 1.0回

・英語表現Ⅰ

27年度 0.71回 28年度目標値 1.0回 29年度目標値 1.5回

・英語表現Ⅱ

27年度 0.85回 28年度目標値 1.0回 29年度目標値 1.5回

《今後に向けて》

中学校では、計画的に実施されているところが多いが、今後、その内容や実施方法、評価との関わり等についても研究授業等で理解を深める必要があると思われる。

高等学校では、まだ十分とは言えない現状であるため、平成28年度から県独自のスピーキングテストを実施することとした。各科目における評価に生かすなど効果的に活用する。

研修会や授業研究会等では、「CAN-DOリスト」と関連付けたパフォーマンステストの

在り方及び評価方法等について共通理解を図る機会を設定する。

⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）

【中学校】

27年度：62.5％ 28年度目標値：75％ 29年度目標値：100％

【高等学校】

27年度：41.1％ 28年度目標値：60％ 29年度目標値：80％

《今後に向けて》

推進リーダーを活用した指導力向上研修は、ほぼ英語で進められている。アンケート調査等からは、英語で授業を進めていくことについて意識するようになってきていることがうかがえる。

「教室英語」を日常的に使用したり、英語でのやり取りや生徒の活動を中心とした授業づくりに努めたりすることを研修会や授業研究会等で継続して指導することにより、「発話をおおむね／半分以上を英語で行っている」英語科担当教員の割合を向上させる。

⑧英語担当教員に対する研修実施回数

【中学校】

27年度：27回、233名 28年度目標値：30回、500名

29年度目標値：20回、250名

【高等学校】

27年度：16回、262名 28年度目標値：20回、300名

29年度目標値：20回、250名

《今後に向けて》

小・中学校では、平成27～29年度を「長崎県英語指導力向上の期間」とし、この期間に県内全ての地区で推進リーダーを活用した指導力向上研修（地区別研修会）を実施する。県教育センターで実施される各研修講座も含め、本県の課題である「CAN-DOリスト」を活用した授業づくりや英語で進める授業の在り方等、実践につながる研修会の持ち方を工夫する。

高等学校では、指導力研修や県教育センターにおける研修講座に加え、外部講師を活用した研修会（リーディング指導やパフォーマンステストの実施等に焦点化した研修）を実施する。

(3) 研修の体系と内容の具体

○小・中学校

平成27年度から29年度までの3年間で「長崎県英語指導力向上の期間」とし、小・中学校教員の英語指導力向上に係る研修会を計画的に実施している。小・中学校では、3年間の期間において、それぞれ次のことを目指す。

小学校では、学年を問わず、すべての先生が

- ・外国語活動の指導を経験する。
- ・簡単な英語で子どもに指示ができる。
- ・ALTと協力して指導ができる。

中学校では、すべての英語科の先生が

- ・授業の半分以上を英語で行う。
- ・生徒の言語活動が活発な授業を行う。
- ・CAN-DOリストを活用した指導ができる。

上記の「3つの姿」の浸透を図るとともに、大学等の外部専門機関の協力を得ながら、小学校における英語教育の早期化・教科化、中学校における英語教育内容の高度化に対応できる英語指導力を持った教員の育成を目指す。

また、研修協力校3校（小学校2校・中学校1校）を指定し、授業公開等を通して、大学等と連携した取組や実践内容についての普及を図る。

【研修の内容】

①英語指導力向上地区別研修会

研修対象者：対象となる地区の小学校中核教員及び全ての中学校英語科担当教員

研修目的・内容等：

小学校教員及び中学校英語科教員の英語力・授業力の向上を図り、本県の小・中学校における英語教育の充実に資することを目的とする。中央研修を受講した英語教育推進リーダーを講師として、中央研修で学んだ指導技術の伝達等を中心とする研修を行う。（中学校英語科担当教員に、外部検定試験を受験する機会を与える予定である。）

②研修協力校における公開授業

研修協力校による授業を通して、「CAN-DOリスト」を生かした指導や児童生徒の活動を中心とした授業づくりなど、授業・評価の改善に資することを目的とする。大学等と連携し、研究協議において専門的・具体的な指導方法等について学ぶなど、英語指導力を高めるための研修内容を計画する。公開授業への参加は県内全域を対象とする。

平成28年度は研修協力校を小学校2校、中学校1校とするが、平成29年度は小学校4校、中学校2校を予定している。多くの公開授業を計画することにより、県内各地で参加者が自校の取組に生かすことができるようにする。

【県内大学との連携について】

県教育委員会は、県内大学や関係市町教育委員会と連携し、英語教育推進協議会を設置する。今後の英語教育の在り方等について協議し、連携を深めるとともに、学校と大学が日常的に連携することができるような支援体制作りを目指す。また、研修協力校が大学と連携した実践をモデルとして提示することにより、各市町教育委員会が積極的に大学と連携し、独自の研修会を主体的に取り組むことができるよう働きかける。

○高等学校

毎年、研修協力校1校を指定する。公立高等学校65校を2つのグループに分け、平成28年度については、普通科を中心とした高校33校、平成29年度については専門学科・総合学科・定時制高校32校の教員を対象に、研修協力校の取組を生かした研修会を実施する予定である。

【研修の内容】

①英語科主任研修会

研修対象者：対象となる高校の英語科主任等33名

研修目的・内容等：

学校全体で英語指導力の向上を図るため、各校の英語科主任を対象にした研修会を実施する。指導主事が、英語教育改善プラン等について講義を行うとともに、外部専門機関から講師を招き、CAN-DOリストの効果的な活用について、講演及びワークショップを行う。また、各学校が作成したものを共有し、活用事例等について情報共有を行う。

②リーディング指導研修会

研修対象者：対象となる高校の英語科担当教員約40名

研修目的・内容等：

教員に教科書以外の教材を効果的に活用するスキルを身に付けさせるため、洋書等オーセンティックな教材を活用し多読を取り入れたリーディング指導について、外部講師を招き、講義及びワークショップ（模擬授業等）を実施する。また、研修協力校において多読指導を中心とした公開授業を実施し、研究協議等を通じて指導力の向上を図る。

③言語活動・パフォーマンステスト研修会

研修対象者：対象となる高校の英語科担当教員約40名

研修目的・内容等：

外部検定試験の運営団体等から講師を招き、授業における言語活動の効果的な活用方法や、評価におけるパフォーマンステストの内容、実施方法、留意すべき点等について講演

やワークショップを実施する。

④教員の英語力向上のための研修会

研修対象者：対象となる高校に勤務し外部検定試験の受験を予定している教員60名程度

研修目的：内容等：

英語で行う授業を推進するため、教員の英語力を高めることを目的として実施する。外部検定試験の実施団体等に依頼し、教員が英語力を向上させるための講義や演習を実施する。また、後日受講者に対して外部検定試験を実施する。

⑤研修協力校における公開授業

研修協力校である長崎北陽台高校には、長崎県高等学校英語教育研究会の事務局があり、英語教育において先進的な取組を進めている。①から④に示す各研修会と抱き合わせる形で当該校教員による生徒の言語活動を中心とした公開授業を実施する。また、研究協議等において生徒の英語運用力を高める効果的な指導について情報交換を行う。

(4) 年間事業計画

月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4月		
5月	【小中】第1回英語教育推進リーダー連絡協議会 英語教育推進協議会	県内大学
	【高校】英語科主任研修会	県内大学等
6月	【小中高】研修協力校を活用した授業研究会 (2月まで、各校3回程度を予定)	県内大学
7月	【小中高】英語教育推進リーダーを活用した研修会 (2月まで、地区別に3日間)	県外大学等
	【高校】リーディング指導研修会	
8月	【高校】教員の英語力向上研修会 (後日、受講者を対象に外部検定試験を実施)	外部検定運営団体等
9月		
10月		
11月	【高校】言語活動・パフォーマンステスト研修会	外部検定運営団体等
12月	【小中】第2回英語教育推進リーダー連絡協議会	
1月		
2月	【小中高】英語教育推進リーダーを活用した研修会 のまとめ	
3月		
【その他の取組】 ○「英語教育推進協議会」を組織し、県教育委員会・県内大学・関係市町教育委員会が、今後の英語教育のあり方や研修協力校を活用した研修会の内容等について協議する。(小・中) ○「英語教育推進リーダー連絡協議会」を組織し、英語教育推進リーダー中央研修に参加した教員が研修内容や地区別研修会の進め方等について協議するための研修会を実施する。(小・中)		

